

私の写生地

森に魅せられて

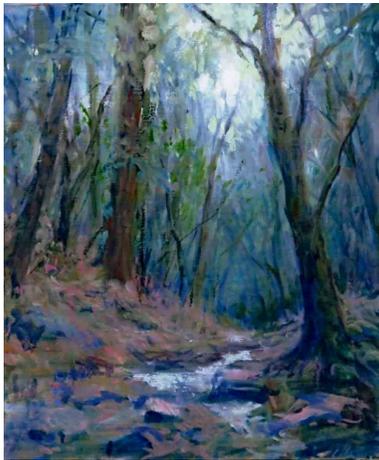
会員 菱田 直美

10年以上前になりますが、奈良の二月堂から石畳の道を下って、大仏殿裏の緑地に来た時のことです。奥の方に太い倒木が山と積まれているのを発見しました。堂々とした巨木が多く、苔むして、その質感や古色が素晴らしく、描いてみたいと強く思いました。(作品③)



▲ ①「池のほとり」(大仏池)

いざ倒木を主題に描くうちに、背後の森や、周囲の樹々の様子を知り、奈良や他の森へも行くようになり、深く魅了されていきました。森の中の池や溪流も面白く、描くようになりました。(作品①②)



▲ ②「小溪」

大社脇には小さい溪流があり、周辺は岩が苔で滑りやすいので御用心下さい。(実は一度水に落ちました。)春日の森にはイチイガシの巨木が多く(写真④) 8世紀頃は飛火野辺りまでイチイの樹林帯が広がっていました。(作品⑤)

たとか。今は市指定文化財となっています。杉の巨木も多く、モミなどと混在しています。奈良ホテル近くの荒池周辺にはハゼの木が多く、秋には紅葉と池のコントラストが見事です。



◀ ③「森の記憶」(2006年)



◀ ④イチイガシ(写真)

⑤「あせびの道」(奈良)



森の道を写生中、突然前方に鹿の母子が現れたりします。こちらに気付くと、鋭い声で子を呼び、素早く走り去って行きます。その姿は俊敏で、フォルムも美しく、描いてみただけで風景の印象が一変するのも面白く、樹や倒木と共に、鹿の観察やスケッチも試んでいます。

しかし、野生の動物ですから、余り接近すると、背後から別の鹿にドンと小突かれたり、紙袋を破かれますから、注意が必要です。

⑥「別荘地への道」(日光)

日光には、沢山美しい所が有りますが、毎回感動するのが中禅寺湖畔です。特に外国大使別荘のエリアは、落葉樹林が美しく、所々に苔むした切株や倒木も見られます。(作品⑥) 旧英国大使別荘は、明治の外交官アーネスト・サトウが建てた物の復元です。隣のイタリア大使別荘は、昔のままの杉皮張りを守っていて、簡素で好感が持てます。このラウンジは、湖に向かってデッキチェアが並び、ゆったり景色を楽しめます。

岸辺まで下りていくと、湖が広々と光り輝き、男体山が目前に堂々とした姿でそびえ、圧倒されます。

⑦「湖畔」(田貫湖)



富士の裾野は、林の中に溶岩が固まった大きな岩がゴロゴロしていて独特の景観です。苔をまとい、まるで切り株かと思紛う物もあります。根が地中深く入りにくい所は、地上に木の根道ができています。

富士五湖の中では、本栖湖、精進湖が静かで好きですが、5つの中に入っていない田貫湖が好きで、折々訪ねます。湖面も広く、湖岸には俗化物も少なく、森が周囲を取り囲んでいます。年に2回、ダイヤモンド富士が見られることで有名です。(作品⑦)

⑧「神宮の森」(写真)



山の奥まで行けなくても、美しい森は身近にあります。由緒ある神社は、大体後ろに森を持っています。

庭師の手入れした庭園ではなく、自然な樹々を見た時、最近では明治神宮に行きます。計画的に作られた森ながら、年月を経て素晴らしく繁り今は樹間を行く者を深々と包みこんでくれます。参宮橋へ向かう道と、清正の井戸周辺が好きで、小鳥のさえずりを聞きながら、大樹のもとでスケッチに集中していると、都心にいる事を忘れれます。(写真⑧)